



士別ロータリークラブ会報

創立 1960・3・24 RI第 2500 地区

Vol. 28 No. 2845

2023-2024年度国際ロータリーのテーマ

2023-2024年度R I 会長 ゴードンR.マッキナリー

2023-2024年度R I 第2500地区テーマ

ガバナー鶴見誠一郎

今こそ変わる勇気を！さあ、一歩前へ

2023-2024年度士別ロータリースローガン

【勇気ある行動で友情と奉仕の実践へ】

～ Let's begin ～



世界に希望を生み出そう

- 会 長／菊地 昭通
- 副会長／山下 卓己
- 幹 事／福島 和秀
- 例会場／士別グランドホテル
- 例会日／毎週月曜日 12:10～13:00

2500地区ホームページ <http://rid2500.jp/>

士別RC <http://www.douhoku.jp/sibeturc/>

R I ホームページ <https://www.rotary.org>

第2932回例会 2024年 3月 4日(月)

今日のプログラム

・普通例会・誕生祝・理事会

前回(2月26日)の記録・夜間例会

司 会 志村孝幸 会場監督
 斉 唱 それでこそロータリー
 本日の出席 会員 43人中 出席者 43人 出席率 100%
 本日の欠席

メイクアップ
 ビジター
 ゲスト

ニコニコBOX 谷村一文 会員(ニコニコBOX過去最多額到達記念)

累計 351,000円

例会予定

■ 3月例会日[水と衛生月間]

- 3月 4日(月) 普通例会・理事会
- 3月 11日(月) 普通例会
- 3月 18日(月) 早朝例会
- 3月 25日(月) 夜間例会

■ 4月例会日[環境月間]

- 4月 1日(月) 普通例会・理事会
- 4月 8日(月) 普通例会
- 4月 15日(月) 普通例会
- 4月 22日(月) 夜間例会
- 4月 29日(月) 休会(昭和の日)

■会務報告……………菊地 昭通会長

北海道の名前の由来についてお話しします。
北海道はどうして県じゃなくて道なのでしょう。
道路が多いからとか言わないでください。
また、北海道はでっかいどうだから。だじゃれかよ、と思うでしょうが、「道は、道路の『道(みち)』という意味もありますが、広い範囲を表す言葉でもあります。
日本では奈良時代から、「道(どう)」という言葉で地域を分けていました。五畿七道と呼ばれるものです。
当時の都(難波宮、平城宮、平安宮)を中心とする5つの国を五畿、それ以外の地域を東海道、東山道、山陽道など7つの道(どう)に分け、その道という単位の下にそれぞれの国を置いて政治を行っていたのです。
この行政区分は明治時代の初めまで続いていました。しかし、この五畿七道に北海道は含まれていません。
当時、北海道は【蝦夷】と呼ばれており、日本から見て異民族が住む国外だと考えられていたのです。
江戸時代、日本の領土は北海道の南端にあった松前藩の領域までで、それ以外はアイヌの人々が住む場所と考えられていました。
しかし、18世紀以降、シベリアまで勢力を拡大したロシア帝国がさらに南進。
蝦夷地にまでその勢力がおよび始めたことがきっかけで、日本は北の国境を定めなければならない事態になったのです。
明治政府は日本の名前を付けることによって、北の大地が日本の領土であることをはっきりさせようとした。
そして、五畿七道に続く8番目の道として「北海道」と名付けたのです。
でも、ほかの道はその後、府や県に分けられたのに、なぜか北海道だけが道のまま残ってしまいました。実は、明治15年から19年まで北海道は函館県、札幌県、根室県の3県に分けられていました。
北海道は本当にでっかいどうと言われるほど広く、なんと17都府県がすっぽり入ってしまうほど広大なのです。
にもかかわらず、当時の人口は極端に少なく函館県で14万人、札幌県で6万人、根室県に至っては1万人くらいしか住んでいませんでした。
人口は少ないのに、3県あることで本州の都府県と同じような規模の行政の役人がいて、大変コストがかかってしまいましたので、やっぱりひとつにまとめた方がいいのではないかということで、再び道に戻りました。

ところで、北海道という名前を付けた人は誰かと言うと、松浦 武四郎という伊勢の国(三重県)生まれで幕末の探検家です。

好奇心が旺盛で旅好きだった松浦 武四郎は、28歳から13年間で6回、蝦夷地探検を繰り返し150冊以上の膨大な記録を残しました。

そこには、武四郎がアイヌの人々に溶け込んで知り得た貴重な文化や暮らしが直筆絵とともに描かれています。

武四郎は、アイヌの人々が暮らしてきた場所を地図に残し、その中には川の流れや土地の高低差まで、じつに細かく描写されてそのほか9,800にも及ぶアイヌ語の地名も記されていました。

明治政府はこうした武四郎の探検の成果に着目し、武四郎に北の大地にふさわしい新しい地名の案を出すよう要請されました。

武四郎は、6つの地名の案がありましたが、なかでも武四郎にとって北加伊道という言葉は並々ならぬ思いが込められていました。

蝦夷地の探検をしている時、アイヌの長老から加伊と言う言葉は、この国に生まれた者を指すと聞いていて、アイヌの皆さんが暮らしてきた大地という思いを込めて、北加伊道という名前を政府に提案したと言われてます。

その後、新しい地名には、この北加伊道が選ばれました。のちに、加伊の字は海に変更されて「北海道」となり、命名から以来155年経っています。

武四郎がアイヌの人々に込めた尊敬と感謝の思いは、今も変わらず北の大地に息づいていることでしょう。

■幹事報告……………福島 和秀 幹事

1. 美深ロータリーより創立60周年の案内が届いております。皆さんにお送りしました出欠の確認を3月8日までに連絡いただきますよう、お願いいたします。
2. 令和5年度士別市民ボランティアスクール開催について案内が届いております。
3月13日18:30～士別市民文化センター研修室にて「生活に困っている方の状況と地域での支えあいについて」のテーマでかみかわ生活安心センター金子センター長が講話します。希望の方は3月4日までにご連絡ください。